

西宮市議会議員

たかの しん

政党無所属・33才

- ◆苦楽園小・苦楽園中・関学高・関学大（法）卒業
- ◆元・阪急不動産（株）/ 阪急阪神不動産（株）勤務

f たかの しん X takanostyle Instagram takanostyle
https://takanoshin.jp たかのしん



◆財政危機から脱却するために、徹底的な改革を！

「住みたい街」なのに赤字が続く西宮市。問題点の多い人事・給与制度を早急に見直すべきです。

■本市財政の赤字体質は深刻です

2022年度の一般会計決算において、本市は歳入総額約2,014億円に対して、約48億円という巨額の赤字を計上しました。本市の財政状況の厳しさは以前から指摘されており、直近では2019年度にも赤字に陥っています。ここ数年は新型コロナの流行に伴う交付金の影響等で表面上は黒字を計上していましたが、実質的な赤字基調は続いてきました。今回の決算は、積年の課題がついに表面化したものです。昨年度末時点で、市の貯金である財政調整基金の残高は約207億円。今後年間40億円程度の収支不足が見込まれており、このままではあと数年で貯金が枯渇してしまう危機的な状況にあります。

※黒字・赤字の定義と金額はいずれも単年度収支に基づく

■他市に比べて高すぎる人件費

こうした厳しい状況を招いている最大の要因は、人件費の高さです。本市の人件費水準は下表の通り類似都市の平均を大きく上回っており、大幅な圧縮が必要です。自治体が人件費を削減する際には、給料の一律カットや新規採用の極端な抑制を行う場合がありますが、真面目に働く職員のモチベーションや優秀な人材の確保という観点から、長期的には望

市民1人あたり決算額	西宮市	類似都市平均
人件費	77,428円	62,943円
扶助費	128,361円	143,311円
公債費	29,858円	37,454円
投資的経費	32,605円	49,451円

※2022年度決算の概要より、類似都市平均は2021年度の金額

ましい手法とは言えません。重要なのは、人事・給与制度を抜本的に改革し、組織全体として人件費を適正化することです。

例えば、本市の給料表は年功序列の要素が非常に強く、昇進しなくても年齢を重ねれば給料が上がり続ける傾向にあります。結果として「早く昇進した課長より、長年昇進していない係長の給料が高い」といったケースが多く発生しています。また市役所の組織は局・部・課の3層で構成されていますが、部・課の2層構成としている自治体も多く、管理職の割合を高める要因となっています。他にも、一部職種の給料が民間の同職種を大きく上回っていることや、各種手当が他市に比べて手厚く支給されていること等、本市の制度には多くの問題点があります。

■スピード感のある行政改革を！

最も大きな課題である人事・給与制度の見直しとあわせて、市は業務の効率化や歳出減・歳入増の具体策にも取り組まなければなりません。市議会ではこれまで私も含めた複数の議員が、こうした趣旨での提案を重ねてきました。赤字脱却のために実施すべきメニューはすでに出そろっており、あとは市長をはじめとする市当局が、これらを実行に移すことができるかが問われています。市民サービスを安易に縮小するのではなく、まずは市役所が自ら組織を改革することによって、財源を捻出するべきです。将来に負担を先送りせず、持続可能な行政運営を実現するために、厳しく指摘を続けてまいります。

◆保育所待機児童対策は、転換点を迎えています。

1歳児・2歳児の受入枠を確保するために、年齢別定員の見直しを訴えました。

■保育所待機児童数の推移

保育所待機児童の解消は、長期間にわたり本市の重要課題であり続けてきました。2002年度に3,752人だった保育所等入所数は、2022年度で8,586人まで増加しており、2018年度には待機児童数が過去最多の413人にのぼりました。一方で、出生数の大幅な減少に伴い、ここ数年は待機児童数が減少傾向にあります。もちろん、依然として子どもを預けられていないご家庭が存在することは重く受け止めていますが、国は全国的な利用児童数のピークを2025年度と見込んでおり、本市でも数年以内にピークを越えることが予想されます。施設の経営者からは今後の経営状況を不安視する声もあがっており、従来のように認可保育所を多く新設することは困難です。

■地域型保育施設を拡充するために

この3年間、本市で待機児童が発生しているのは1・2歳児に限られます。この年齢の児童を受け入れるには、0～2歳児を対象とした地域型保育施設の整備が有効です。しかしながら、現在では原則と

して地域型保育施設の新設が認められていません。市は、その理由を「地域型保育施設を卒園する時点（3歳児）の受入枠が十分に確保されていないこと」としていますが、私は認可保育所の年齢別定員を見直すことで、この課題を解消できると考えています。

私が提案しているのは、下表のように認可保育所の年齢別定員を変更し、3歳児以上の定員を増やすことです。これにより卒園後の受入枠が確保できるため、地域型保育施設の新設が可能になると考えます。私の質問に対し、市は「年齢別定員の見直しも含めて待機児童解消に向けた施策を検討する」と答弁しました。今後の展開を注視してまいります。

◇定員見直しのイメージ

種別	年齢	定員	各年齢の 定員を変更	種別	年齢	定員
認可 保育所	0～2	55		➔	認可 保育所	0～2
	3～5	70	3～5			80
地域型 保育施設	0～2	19		地域型 保育施設	0～2	19
地域型保育施設の卒園児は 3歳から認可保育所へ				地域型 保育施設	0～2	19

3歳以降の受入枠が増え地域型保育施設の新設が可能に

◆全庁共通のシステムを活用すべきです！

多額の費用を要する独自のホームページ制作には、慎重な判断が求められます。

■市ホームページの管理状況

市の公式ホームページは、全庁共通のホームページ管理システム（CMS）で運用されています。CMSはパッケージ化されたソフトであり、統一的な仕様で情報が見やすく、費用も安価という利点があります。一方で、デザインや機能性の観点からCMSを利用せず、各部署が外部の事業者へ制作等を委託しているケースもあります。その実態を調査したところ、該当するページは40件も存在し、運用費は年間約4,300万円にのぼることが判明しました。表面に記載の通り、本市財政は極めて厳しい状況に置かれており、こうした支出の見直しは欠かせません。

■ホームページ管理システムへの集約を！

掲載内容によって、CMSの利用を避けるべき場合もあることは理解できます。しかしながら、全庁共通の管理システムが存在するにもかかわらず、利用しないページが乱立することは好ましくありません。CMS以外で作成されるページは仕様がそれぞれ異なるため、これまでに「問い合わせ先が掲載されていない」「リンク切れが発生している」等の課題を指摘されたこともあります。市は既存のページをできる限りCMSへ移行するとともに、新規ページの新規制作時には各部署が独自に発注することを控えるべきです。引き続き、適正な運用を求めてまいります。

■PROFILE / 鷹野 伸 (たかの しん)

【お問い合わせ先】 mail@takanoshin.jp / 070-1524-7109

1990（平成2）年3月生まれ。西宮市立苦楽園小学校・苦楽園中学校・関西学院高等部・関西学院大学法学部卒業。大学在学中、「甲東ヌーヴェルヴァーグ・ウインドオーケストラ」を設立（初代表）、進学塾「関学ゼミナール」講師を務める。2012年、阪急不動産株式会社（現：阪急阪神不動産株式会社）に入社。新築分譲マンション部門にて約6年半勤務。2019年4月の西宮市議会議員選挙にて初当選、現在2期目。行政書士試験合格者、宅地建物取引士。

【事務所住所】〒662-0812 西宮市甲東園3丁目1-37-308 ※ご来訪の際は事前にご連絡くださいませ。

